

畑雑草の幼植物

(8)カラスノエンドウ類

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

本州以南に自生するマメ科ソラマメ属のつる性冬生一年生草種のいくつかが麦畑に侵入・まん延する。カラスノエンドウ（別名ヤハズエンドウ）*Vicia sativa* subsp. *nigra* var. *segetalis* が最も多く、スズメノエンドウ *V. hirsuta*、カスマグサ *V. tetrasperma* も比較的普通に見られる。この他、ナヨクサフジ *V. villosa* subsp. *varia* やその変種であるピロードクサフジ subsp. *villosa* も稀に侵入する。

ムギ類への被害はカラスノエンドウが最も大きく、種子が収穫物に混入すると選別が困難なため問題となる。二毛作の麦畑では通常、秋期に出芽し、越冬後、初夏に開花結実という生活史をとる。しかし、野外での出芽期間は長く、夏期から出芽が見られる。

ソラマメ属は地下子葉性で、子葉は土中にとどまり、本葉第1葉から地上に出る。出芽可能深度は数 cm ～ 10cm に及ぶ。カラスノエンドウの第1, 2葉は2小葉で、先の尖る線状だ円形で、葉柄の基部に披針形の托葉がある（写真-1）。以後、第1枝に同形の葉を数対展開した（写真-2）後、第1枝の基部から第2枝を出す（写真-3）。幼植物の小葉は成植物の小葉とは形が異なる。基部からさかんに分枝を出し、第2枝以降の小葉は広倒卵形となり、その先は凹む（写真-4）。生育が進むと小葉の数は2対から、4対以上となり（写真-5）、秋期に出芽した個体は越冬期に盛んに分枝する

（写真-6）。

スズメノエンドウの第1葉は4小葉（2対）で、小葉は線状だ円形で先は尖らない（写真-7左）。カスマグサの第1葉は2小葉（1対）で、先の尖るだ円形（写真-7右）。カラスノエンドウと同様に、第1枝に数枚の複葉を出した（写真-8：スズメノエンドウ、写真-9：カスマグサ）後、地際から第2枝、第3枝…を分枝する（写真-10：スズメノエンドウ、写真-11：カスマグサ）。3草種とも葉は互生し、枝上部の複葉の先端は巻きひげとなり、他物に絡みつく。

成植物ではカラスノエンドウは小葉12～14枚の偶数羽状複葉で、先のやや凹んだ倒披針形あるいは広線形となる。他物に絡みついて茎が立ち上がる。茎は四角形で軟毛があり、葉の基部に2裂する托葉がある（写真-12）。スズメノエンドウの托葉は小型である（写真-13）。

カラスノエンドウは葉腋に1, 2個の紅紫色の花をつけ（写真-14）、豆果は長さ約5cm、無毛で熟すと黒色となり（写真-15）、中に約8個の種子を入れる。スズメノエンドウは長い花柄の先に白紫色の花を数個つけ（写真-16）、豆果には毛があり、中の種子は2個。カスマグサは花柄の先に淡紅紫色の花を1, 2個ずつつけ（写真-17）、豆果は無毛、中の種子は4個である。



写真-1 カラスノエンドウの第1枝第1,2葉。



写真-2 4対の本葉をつけたカラスノエンドウ第1枝。



写真-3 地際から第2枝(写真右側)を分枝したカラスノエンドウ幼植物。

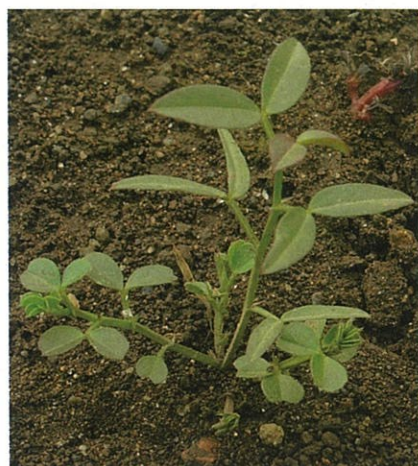


写真-4 第2~5枝を分枝したカラスノエンドウ幼植物。



写真-5 盛んに分枝するカラスノエンドウ幼植物。



写真-6 カラスノエンドウ越冬個体。



写真-7 スズメノエンドウ(左), カスマグサ(右)の第1本葉。



写真-8 第3葉を展開中のスズメノエンドウ第1枝。



写真-9 第3葉を展開したカスマグサ第1枝。



写真-10 スズメノエンドウ幼植物。



写真-11 カスマグサ幼植物。



写真-12 カラスノエンドウの茎と托葉。



写真-13 スズメノエンドウの托葉。



写真-14 カラスノエンドウの花。



写真-15 カラスノエンドウの豆果。



写真-16 スズメノエンドウの花。



写真-17 カスマグサの花。